

## 【期日・会場】

2018年12月9日（日）

13:00～16:00

東北学院大学

土樋キャンパス

ホーイ記念館

H303教室

## 【日程】

講演

13:00～13:50

パネルディスカッション

14:00～15:50

## 【参加費】

正会員 1500円

学生会員 1000円

一般（社会人）2000円

★東北学院大学の学生は  
無料です

## 【申し込み方法】

前日までに、御氏名・御所属  
をお書き添えの上、

FAX:

022-375-3472

または

メール:

amano1965@@hotmail.com

@は一つにして下さい

にて東北学院大学天野研究  
室までお申込みください。

## 【主催】

日本体育・スポーツ経営学会

## 【後援】

東北学院大学（地域構想学科）

宮城県スポーツ協会

# 東北学院大学地域構想学科特別講演会 まちづくりとスポーツの力



## — 開催趣旨 —

スポーツは、その実践において他者との協働を必要とします。そのため、半ば意図せずに集団や人のつながりを生み出してきました。スポーツが持つそれらの機能に着眼した人々は、スポーツを「まちづくり」に活用しようとし、スポーツクラブでは、地域の人々のつながりの醸成や再獲得が数多く実践されてきているといえます。

さらに、近年では政府も、スポーツを国の成長戦略の柱と捉え、大規模なスポーツ施設を中心とした開発、あるいは地方の創生や活性化にも活用しようとしています。このようにスポーツとまちづくりとの関係を鑑みても、その規模、主体となる集団、その目的には多様性があると思います。

2020年には東京で世界のスポーツの祭典が開催される予定です。確かに、近くのコンビニエンスストアでも、オリンピックのグッズが購入できるようになりましたが、我々地方に在住する人々（特に被災地の住民）にとって、あまり身近な話題に感じられていないのは気のせいでしょうか。また、一部の競技スポーツでは育成の成果が表れてきて、それは嬉しいことですが、実際に我々が手軽にスポーツを行う環境はプラスの方向に変化しているのでしょうか？ 大きなスタジアムだけが出来て、海外のように負の遺産にならないのでしょうか？

2014年に本学で開催した同様の会では、社会学者から「（いくらシステムを整えても）住民が本気にならない限り、地域（まち）づくりはできない」と釘を刺されたように、なんらかの外発的な街づくりには限界があることも記憶に新しいです。また、先ごろ徳島大学で開催された体育学会における体育経営管理（本学会と同じ研究対象の領域）シンポジウムにおいて地域のスポーツシステム（クラブを含む）の持続可能性が議論され、社会やそれに伴う制度的な変化のなかでスポーツの組織がどのように活動をしていくのかという問いは、研究対象或は実践的課題としての重要性が認識されています。

そこで今回は、スポーツを通じたまちづくりの実践に奮闘しているアクターを招きました。皆さんとスポーツと「まちづくり」の新たな関係性を見出していきたいと考えています。

## — プログラム —

講演

「希望のスポーツまちづくり論」

演者：高岡 敦史 氏（岡山大学／スポーツ経営学）

パネルディスカッション

「東北とスポーツの未来（2020の先へ）」

ファシリテーター：天野 和彦（東北学院大学／スポーツ経営学）

◆東北人と地域のスポーツ

佐久間 政広（東北学院大学／農村社会学）

◆仙台のスポーツ、いままでとこれから

武田 均 氏（スポーツコミッションせんだい事務局長）

◆地域二一ズを実現する荒井東の官民連携まちづくり

榊原 進 氏（都市デザインワークス代表理事）